

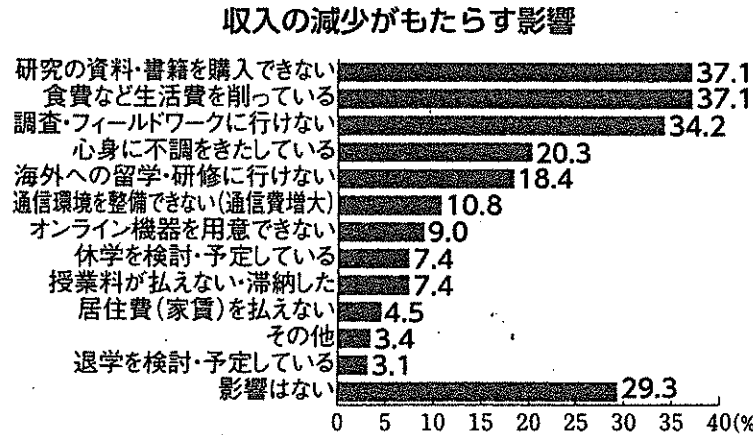
1/7 市産

大学院生の 研究・生活実態

全院協アンケートから

コロナ禍で収入減

全国大学院生協議会
(全院協)の「2020



全国大学院生協議会「2020年度大学院生の研究・生活実態に関するアンケート」から

年度 大学院生の研究・生活実態に関するアンケート調査「結果がまとまりました」。

04年から始まった調査は今回で17回目。6月1日～8月31日までオンラインで実施。38都道府県の132国公立大学と二つの海外大学の747人から回答がありました。

コロナ禍で研究と生活の両面で大きな影響を受けています。53・6%が何らかの形で収入が減少したと回答。「研究に関する資料・書籍の購入ができない」「食費など生活費を削っている」がともに37・1%で、「退学を検討・予定している」も3・1%ありました。

(グラフ)
外国人の院生も78・8%が収入減。性別でも女性や「その他」、「回答の意思なし」と答えた院生ほど収入減の割合が高く、弱い立場に置かれた人により悪影響が出ています。

(随時紹介)